

## 「琉球大学の教育改善のための学生調査」2016 年度入学生の追跡調査結果

### 概要

「琉球大学の教育改善のための学生調査」は、本学の学部学生を対象とした調査であり、2011 年から実施されている。具体的には、大学 IR コンソーシアムの一年生調査・上級生調査及び本学独自の調査から構成されており、本学の学生の学習経験や学修成果、生活環境等に関するデータを収集し、その分析をとおして今後の本学の教育改善に結び付けることを目指している。

今回、2016 年度～ 2019 年度調査において、本学独自の調査項目（以下 URGCC 項目とする）から得たデータを中心に分析を行い、7つの URGCC 学習教育目標の達成度に関する結果を報告する。

### 使用したデータ

「琉球大学の教育改善のための学生調査」（9月実施）より  
2016 年度 1 年次、2017 年度 2 年次、2019 年度 4 年次の回答データ  
※2018 年度調査については、3 年次に URGCC 調査項目について回答を求めている。

### 回収率

各年度における対象年次の回収率は、表 1 のとおりである。

表 1 各年度における対象年次の回答者数と回収率

	2016 年・1 年次	2017 年・2 年次	2019 年・4 年次
回答者数	1228	687	439
在籍者数	1647	1666	2145
回収率	74.6%	41.2%	20.5%

※在籍者数は各年度 5 月 1 日現在の数値であり、外国人（留学生）及び休学者を含む。

### プログラムごとの回答数について

所属教育プログラムと学年の回答について、表 2 に示す。

表2 所属プログラムと年次の回答数及び回収率のクロス集計表

プログラム名	2016年・1年次	2017年・2年次	2019年・4年次	合計
法学	49 51.6%	29 30.5%	17 17.9%	95 100.0%
経済学	72 52.6%	43 31.4%	22 16.1%	137 100.0%
政治・国際関係学	37 45.7%	26 32.1%	18 22.2%	81 100.0%
人間行動	25 41.0%	19 31.1%	17 27.9%	61 100.0%
社会学	25 49.0%	16 31.4%	10 19.6%	51 100.0%
地理歴史人類学	27 49%	17 31%	11 20%	55 100%
琉球アジア文化	24 52.2%	13 28.3%	9 19.6%	46 100.0%
英語文化	48 47.1%	26 25.5%	28 27.5%	102 100.0%
ヨーロッパ文化	12 40.0%	11 36.7%	7 23.3%	30 100.0%
観光学	49 56.3%	27 31.0%	11 12.6%	87 100.0%
経営学	59 49.6%	38 31.9%	22 18.5%	119 100.0%
学校教育	84 50.3%	50 29.9%	33 19.8%	167 100.0%
生涯教育	82 46.6%	56 31.8%	38 21.6%	176 100.0%
数理科学	36 55.4%	18 27.7%	11 16.9%	65 100.0%
物理系	23 59.0%	10 25.6%	6 15.4%	39 100.0%
地学系	19 63.3%	8 26.7%	3 10.0%	30 100.0%
化学系	36 51.4%	17 24.3%	17 24.3%	70 100.0%
生物系	37 52.1%	24 33.8%	10 14.1%	71 100.0%
医学	73 85.9%	9 10.6%	3 3.5%	85 100.0%
保健学	41 55%	26 35%	8 11%	75 100%
機械システム工学	90 51.4%	51 29.1%	34 19.4%	175 100.0%
土木	34 48.6%	18 25.7%	18 25.7%	70 100.0%
建築学	33 53.2%	15 24.2%	14 22.6%	62 100.0%
電気電子工学	74 52.9%	41 29.3%	25 17.9%	140 100.0%
情報工学	47 49.5%	30 31.6%	18 18.9%	95 100.0%
亜熱帯地域農学	20 43.5%	14 30.4%	12 26.1%	46 100.0%
亜熱帯農林環境科学	29 59.2%	15 30.6%	5 10.2%	49 100.0%
地域農業工学	14 51.9%	9 33.3%	4 14.8%	27 100.0%
亜熱帯生物資源科学	28 59.6%	11 23.4%	8 17.0%	47 100.0%
全体	1227 52.1%	687 29.2%	439 18.7%	2353 100.0%

## 得点率の算出

URGCC 項目については、回答は4件法である。URGCC 学習教育目標の達成度を把握するため、回答について、「とてもあてはまる：3点」、「ある程度あてはまる：2点」、「あまりあてはまらない：1点」、「まったくあてはまらない：0点」として得点化し、表3のとおり「得点率」に換算した。

「得点率」とは…各尺度の合計得点を100とし、学生がそのうち、どの程度の割合にまで到達を示したかを捉える数値（百分率）

表3 URGCC 学習教育目標の得点率変数について

変数名	算出法	項目内容
自律性得点率	4項目を加算した 合計12点中の得点率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意義を理解することができる</li> <li>・目標達成のために、自律的に努力することができる</li> <li>・生涯を通して学び続けようという姿勢を持つことができる</li> <li>・心身の健康を自律的に維持するように努めることができる</li> </ul>
社会性得点率	5項目を加算した 合計15点中の得点率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の規範やルールの意味を理解し、自己の良心に従って行動できる</li> <li>・他者の意見を傾聴することができる</li> <li>・他者と協調・協働して行動することができる</li> <li>・リーダーシップを有し、目標の実現のために行動することができる</li> <li>・社会の一員としての自覚を持つことができる</li> </ul>
地域・国際性 得点率	5項目を加算した 合計15点中の得点率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・国際社会の発展に積極的に関与することができる</li> <li>・沖縄の自然・歴史・社会等と世界の状況を結びつけて理解することができる</li> <li>・異文化を理解し、寛容な姿勢を持つことができる</li> <li>・自然環境を理解し、自然と共生するための知識を身につけることができる</li> <li>・自分が生活している地域社会の問題を理解することができる</li> </ul>
コミュニケーション・スキル 得点率	5項目を加算した 合計15点中の得点率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な日本語力を持ち、活用することができる</li> <li>・特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる</li> <li>・語彙、論理ともに適切な文章で論文を作成することができる</li> <li>・自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析・理解し、表現することができる</li> <li>・様々な立場を理解し、論理的に意見を交わすことができる</li> </ul>
情報リテラシー 得点率	4項目を加算した 合計12点中の得点率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信技術を活用することができる</li> <li>・それぞれの分野において、信頼できる情報源を判断することができる</li> <li>・多様な情報を収集・分析して適正に判断することができる</li> <li>・収集した情報をモラルに則って活用することができる</li> </ul>
問題解決力 得点率	5項目を加算した 合計15点中の得点率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な視座から物事を批判的に考察することができる</li> <li>・問題を見だし、創造的に解決策を考えることができる</li> <li>・情報や知識を論理的に分析することができる</li> <li>・獲得した知識や経験等を活用し、課題について総合的に判断することができる</li> <li>・幅広い学問分野について関心を持ち、その分野から得られる知見を活用することができる</li> </ul>
専門性得点率	3項目を加算した 合計9点中の得点率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻する学問分野における思考法を体系的に身につけており、それらを活用することができる</li> <li>・専攻する学問分野におけるスキルを体系的に身につけており、それらを活用することができる</li> <li>・専攻する学問分野における知識を体系的に身につけており、それらを活用することができる</li> </ul>

各学習教育目標の得点率を学年ごとに比較した結果を表4・図1に示す。また、入学時と卒業時における同得点率の比較を図2に示す。回答の空欄は欠損値として取扱い、回答数には含めていない。

表4 URGCC 学習教育目標得点率の記述統計量

変数	学年	回答者数	平均値(%)	標準偏差	最小	最大
自律性得点率	2016年・1年次	1206	62.9	16.8	0.0	100.0
	2017年・2年次	673	61.4	17.8	0.0	100.0
	2019年・4年次	421	67.5	19.8	0.0	100.0
社会性得点率	2016年・1年次	1196	63.6	15.7	0.0	100.0
	2017年・2年次	666	62.2	17.0	0.0	100.0
	2019年・4年次	421	67.9	19.0	0.0	100.0
地域・国際性 得点率	2016年・1年次	1189	56.4	16.8	0.0	100.0
	2017年・2年次	668	57.8	17.6	0.0	100.0
	2019年・4年次	421	62.5	19.3	0.0	100.0
コミュニケーション・ スキル得点率	2016年・1年次	1202	51.9	17.7	0.0	100.0
	2017年・2年次	671	54.6	18.5	0.0	100.0
	2019年・4年次	415	59.1	19.7	6.7	100.0
情報リテラシー 得点率	2016年・1年次	1199	57.0	16.5	0.0	100.0
	2017年・2年次	666	59.1	18.1	0.0	100.0
	2019年・4年次	421	64.2	19.1	0.0	100.0
問題解決力 得点率	2016年・1年次	1204	57.0	17.2	0.0	100.0
	2017年・2年次	669	59.0	17.8	0.0	100.0
	2019年・4年次	421	63.3	19.0	0.0	100.0
専門性得点率	2016年・1年次	1206	51.7	19.4	0.0	100.0
	2017年・2年次	674	55.3	20.1	0.0	100.0
	2019年・4年次	421	62.2	21.0	0.0	100.0

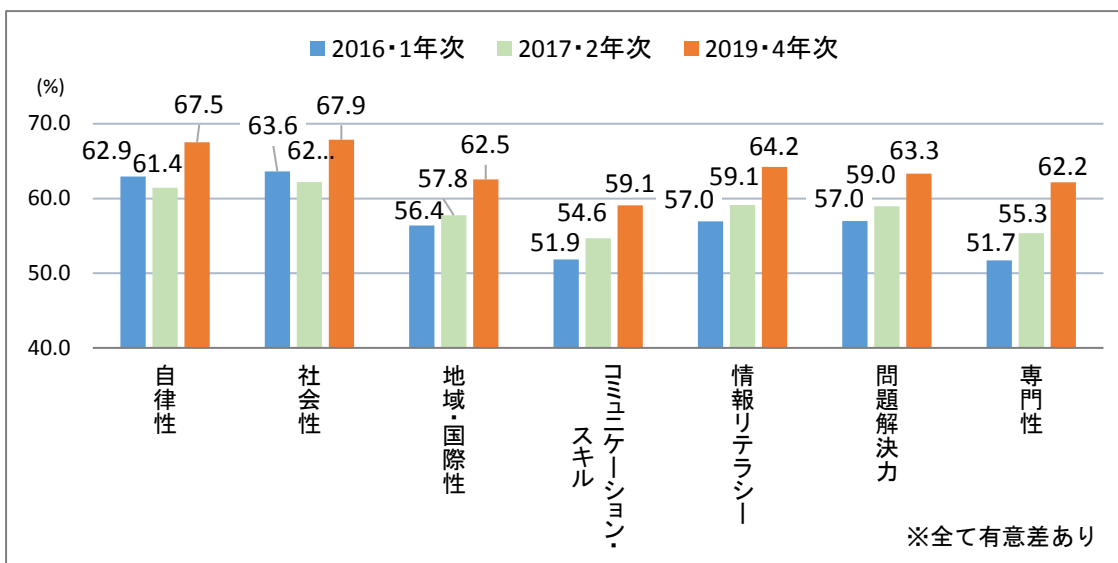


図1 URGCC 学習教育目標得点率平均の学年間比較

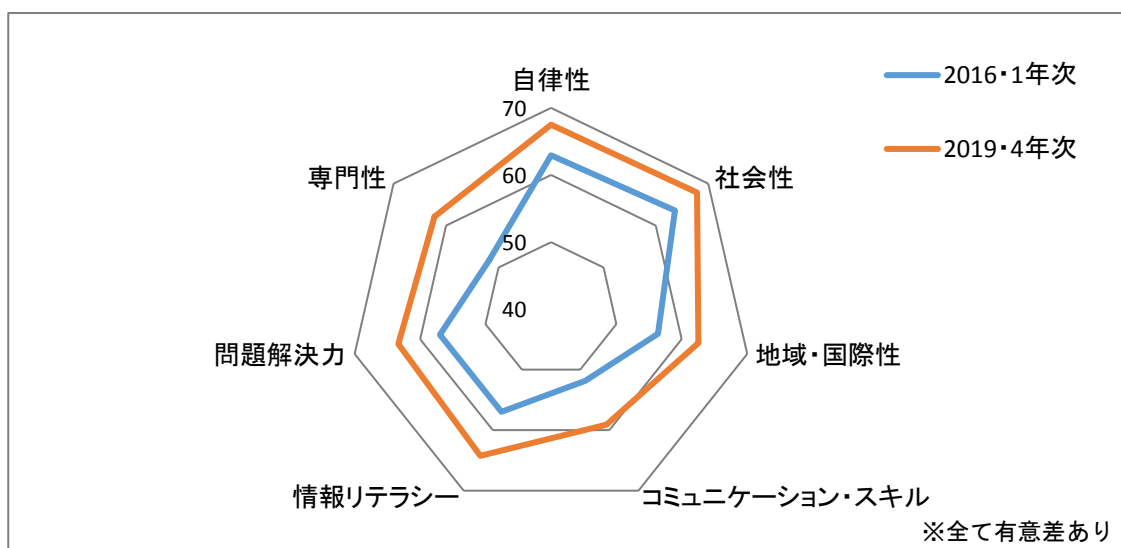


図2 2016 年度入学生と 2019 年度卒業生の URGCC 学習教育目標得点率平均の比較

### URGCC 学習教育目標の未達成群と達成群の比較

URGCC 達成度について、得点率が 66.7%以上を超えている学生を達成していると仮定し、「未達成群」と「達成群」を比較した結果を図3に示す。達成基準とした「66.7%」は、「とてもあてはまる：3点」、「ある程度あてはまる：2点」の合計を「あてはまる」回答とした時に、最低でも「ある程度あてはまる」と回答した場合の合計得点を満点で割った時に出た数値を少数点第2位において切り上げた値（百分率）である。

例) 自律性得点の「あてはまる」回答の最低点 (8) ÷ 自律性得点の満点 (12) × 100 = 66.66... (%)

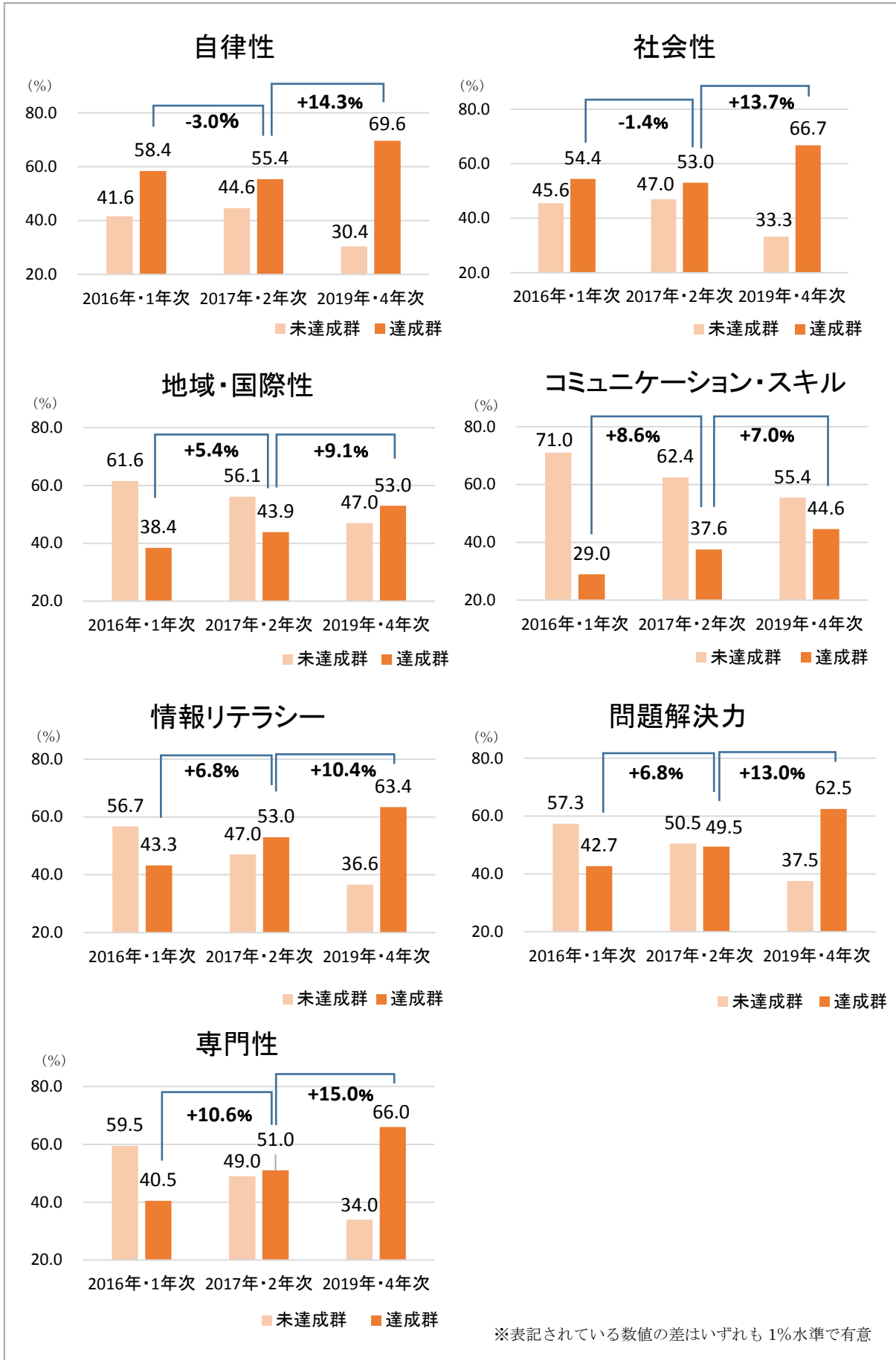


図3 学年別 URGCC 学習教育目標の達成率